

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

平成21年12月1日発行
編集・発行/富士見市立難波田城資料館
第42号
NEWS from NANBATAJYO

関宿城と逆井城

今年の夏、城郭史研究で有名な西ヶ谷恭弘氏の案内で関宿城と逆井城を見学する機会があり、いささか旧聞ではありますが感想等を報告させていただきます。

関宿に先立ち、桜の名所である権現堂堤を訪れました。最初は、なぜ真夏の権現堂なのかと不思議に思いました。その後、千葉県北西部の江戸川と利根川が分流する地点にある関宿を訪れました。こちらの利根川は江戸時代の元和7年(1621)の改修工事によって出来上がったものでした。つまり、西ヶ谷氏の狙いは新旧の利根川を見せることにあったようです。

関宿城は15世紀中葉に築田氏が築きました。江戸時代には、幕府もこの地を重視し有力譜代大名を配置してきました。「千葉県立関宿城博物館」は、巨大な堤防の上にそびえ立つ白亜の天守閣が昔をしのばせるに十分なものがあり、舟運や関宿藩の歴史も手際よく展示しています。最上階からの展望も関宿が関東の治水・物流の要衝であったことを納得させるものがあります。ただし、歴史上の関宿城は現在の場所よりも70m南にありました。今は堤防の下に埋まり、「関宿城跡」の碑だけが残っています。



関宿城

逆井城は関宿から北東方向に数kmの茨城県坂東市にあります。標高20mの台地の先端にあり、昔の飯沼川を自然の防塁とする平城です。一曲輪の脇にある「古城」の築造が15世紀中葉までさかのぼるとされ、関宿城と同じく築田氏や古河公方足利成氏も関っていました。その後、後北条氏が攻略して関宿～逆井ラインを結城・佐竹・多賀谷氏等と対峙する北関東の拠点としま

市民学芸員 西尾 勉

した。しかし天正18年(1590)に後北条氏が秀吉に敗れ、家康が関東の地に入ると、関宿城の方が重視され逆井城は廃城となり、約400年の長い眠りにつきました。

ここは、西ヶ谷氏自身が発掘調査から復元作業まで携わっただけに、懇切な説明を受けることができました。城郭の復元は、後北条氏の治めた戦国時代末期をベースとし、大手橋、二層の物見櫓、井楼櫓、二階門等があります。いずれも発掘調査に基づき、同時代の文献史料を参考に建てられました。中でも一曲輪と東二曲輪を結ぶ二階門と橋を深い空堀の底から見上げる景観は圧巻です。その他には、旧関宿城の城門(江戸期)等が移築保存され、建物だけでなく郭内の空堀や土塁も含め、一曲輪、東と西の二曲輪、三曲輪の一部が公園となり、茨城県指定史跡となっています。



逆井城の物見櫓と大手橋

関宿城と逆井城は、さして離れていませんが「城」の姿をどう見せるかは、全く対照的です。今年の大河ドラマ「天地人」では、天守閣を備えたいくつもの城が登場しました。未だに「城＝天守閣」という考え方は根強く、あちこちで天守閣を備えた「城」が人気を博しているようです。現関宿城は江戸城の富士見櫓を真似して再建されました。それは、もともと関宿藩が江戸城の隅櫓をお手本にして築城したからだといいます。一方、逆井城は一見地味な印象を受けますが、復元に携わった方の解説を受けると、戦国末期の姿を忠実に復元しようとした苦心のあとがありありと窺われ、そのたたくまいには感動させられました。



難波田城公園 秋

実りの季節の到来とともに、難波田城公園にも様々な秋の風物詩が見られます。公園内の田んぼでは、稲の収穫が行われ、旧金子家の前庭の「鶴の子柿」の木にもやや小粒な可愛い柿がなります。夕暮れ時、古民家の軒先をさわやかな秋風が通り抜け、そつと頬をなでていきます。どこからともなく聞こえてくる虫の鳴き音色に心を癒してみてもいいでしょうか。



「秋の古民家コンサート」

毎年、旧大澤家住宅の前などで開催される演奏会。今年は、美しいチェロの音色が静かに公園の中を流れていきました。



「さつまいも掘り」

公園近くの畑で、美味しそうにみのったさつまいもを掘るイベントが行われます。掘った後の試食会での味が格別です。



「田んぼのやらい」

田んぼ体験隊が刈った稲を、脱穀までの間に昔ながらの「やらい」にかけます。公園内の田んぼにも秋の景色が訪れます。



「十五夜のだんごづくり」

豊作を祈り月見の宴を催す風習から、だんごづくりを行います。旧金子家などの縁側にススキとともに飾ります。

おもしろ・なつかし体験 ⑳

さつまいも掘り

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

10月25日（日）の午前、難波田城公園に隣接する畑で、難波田城公園活用推進協議会主催の『さつまいも掘り』が行われました。当日は朝方まで雨が残り実施が危ぶまれましたが、雨も上がり、30組（約80人）の参加者が長靴、シャベル、軍手などをもち、続々と集まってきました。

協議会の方々の手で、掘りやすいように葉は切りそろえられ、さらに1番～30番まで区割りされた番号札も取り付けられていて、参加した人たちは自分の番号の地面を掘り起こすだけです。初めて参加する親子も多く、番号順に畑へ向かい掘り方の説

明を受けると、喜び勇んで地面を掘り起こし始めました。参加者は、出てきた虫やカエルにキャ～キャ～騒ぎながらも、つぎつぎ掘れるさつまいもをみて「わあ、すごく大きい!」「5個もつながってる!」などと歓声を上げ、30分もたたないうちに全部掘りあげました。そして、最後に多くの方々が、がんばりの成果をカメラにおさめるべくポーズをとりました。試しに袋に入った成果を持たせていただくと、10kgはありそうでした。大収穫にみんな大満足でした。



おっきいおいも、とったぞ〜!

人の創った道具★人の使った道具

灯りの道具

12月26日まで開催中の「平成21年収蔵品展 昔のあかり」から展示資料を紹介します。

灯明皿(とうみょうざら)

あかり専用の道具として最初に普及したのは、エゴマや菜種の油をともし「灯明皿」でした。小皿に油を入れ、灯芯^{とうしん}をひたし、吸い上げた油に点火します。遺跡の出土品と同じ形態の灯明皿が、市内の旧家にも残されていました。



左：難波田城跡(旧十玉院)出土 右：市民から寄贈

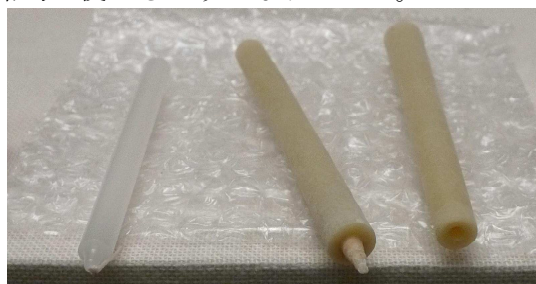
行灯(あんどん)

行灯は持ち歩き用の灯火具として中国で発明されましたが、日本では、江戸時代に屋内用として普及しました。紙の囲いにより、火が消えにくくなりました。屋内用に発達したため、台が付き、灯芯などを入れる引出しが設けられました。



ろうそく

日本でろうそくが普及したのは江戸時代です。伝統的な「和蠟燭」は、ハゼノキやウルシの実から作ります。高価で、日常的に使えませんでした。明治時代に石油の成分であるパラフィンで作る洋ろうそくが普及しました。安価なので、日常的に使えるようになりました。



左：洋ろうそく 右2本：和ろうそく

このコーナーでは、当資料館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

ガンドウ

ろうそくを光源とする携帯用の灯火具です。バケツ形の覆いの中に、^{おお}直交する2重または3重の輪が取り付けられています。



ろうそくが常に直立するように輪が回転します。

石油ランプ

当館の灯火具資料の大半を占めるのが石油ランプとその部品です。石油ランプは、明治時代には文明開化を象徴する灯りとして普及し、大正～昭和初期には、電気が普及しない地域の暗い生活の象徴となりました。

ランプで燃やした石油は、今では暖房専用のようになった「灯油」です。



灯火管制用電球

日中・太平洋戦争中は、空襲に備えて灯火管制用電球が使われていました。内面を塗装して、余分な光が漏れないようにしています。写真の資料は、芝浦電気と合併する直前の東京電気の製品です。



現在も、衛星写真で見ると、平和をおう歌する国の夜は無駄に感じるほど明るく、戦争中や臨戦体制の国の夜は暗く見えます。

冬のイベント予定

ちよっ蔵市もちつき実演と販売

年末恒例の餅つきと餅の販売を行います。
餅つきの体験もできます。

日時 12月23日(祝)午前11時～午後1時
会場 旧金子家住宅
主催 難波田城公園活用推進協議会

子ども書初め練習会

書初めの本番にそなえ、練習しましょう。
書道サークルの方々による指導もあります。

日時 12月23日(祝)午前10時～午後3時
会場 講座室
持ち物 書道セット、半紙
協力 硯友会

古文書講座(中級編)

江戸時代の古文書を解説しながら、当時の歴史や文化を学びます(全3回)。

日時 1月24日(日)・31日(日)、2月7日(日)
時間は、いずれも午前10時～正午
会場 難波田城資料館講座室
講師 宮原一郎氏(國學院大學講師)
定員 20人

ふるさと体験「正月飾りづくり」

玄関に飾る、しめ縄を作ります。

日時 12月25日(金)午前の部 10時～正午
午後の部 1時半～3時半

定員 各15人
(申込み順。市内在住・在勤者のみ)

参加費 1,500円(材料代)

持ち物 はさみ

申込み 12月1日(火)午前9時から直接又は

電話で

予告

ちよっ蔵市

1月24日 まゆだまだんごづくり

2月28日 手打ちうどんの実演と販売



平成22年春季企画展

富士見のみそ・

しょうゆ

3月6日(土)～

5月9日(日)



ちよこっと体験(12月～1月初め)

12月5日(土) はたおり	23日(祝) おりがみのミニだこづくり
6日(日) 羽子板とコマづくり(有料)	26日(土) お年玉袋づくり
12日(土) 昔のあかり	1月9日(土) 羽子板とコマづくり(有料)
13日(日) 麦わらのはり絵	10日(日) ダイヤだこづくり
19日(土) 羽子板とコマづくり(有料)	11日(祝) 七輪で餅焼き(有料)
20日(日) ジュズダマの腕輪づくり	※時間は、いずれも午後1時から3時です。

難波田城公園花ごよみ

サザンカ(12月) ツバキ(2月)
サンシュユ(2月) ウメ(3月)

年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は12月27日(日)から1月5日(火)まで休館です。公園は無休で、午前9時から午後5時まで開園しています。



編集・発行/富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑568-1 Tel.049-253-4664 Fax.049-253-4665

富士見市役所ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館 休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜日・日曜日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時

◇公園 休園日/なし ◇公園開園時間/午前9時～午後6時(4月～9月)、午前9時～午後5時(10月～3月)